

5 災害調査 岩手県八幡平市源太ヶ岳の雪崩調査 (2008. 3. 9、12)

研究代表者	雪氷：小杉健二	実施期間	平成19年度
研究参加者	雪氷：佐藤 威、雪氷(契約研究員)：根本征樹 岩手大学：井良沢道也、晴山拓彦、(社)日本山岳ガイド協会：高村真司		

[目的]

2008年3月8日12時27分頃、岩手県八幡平市の源太ヶ岳(標高1545m)で雪崩が発生し、山スキー・登山中の4人が巻き込まれ2人が死亡した(死因は窒息)。現場は源太ヶ岳の東側斜面であり、縦150~200m、横約150mの範囲で雪が崩れたと報道された(ウェブ版朝日新聞2008年3月8日、岩手日報2008年3月9日朝刊)。本調査の目的は、現場の積雪が時間とともに変質する前に雪崩調査および積雪調査を行い、雪崩発生の要因等を明らかにし、雪崩災害防止に資することである。

[実施内容]

雪崩発生の翌日、2008年3月9日に、源太ヶ岳の麓の松川温泉の近傍(A点、標高880m)で積雪調査を行った(図1)。また、雪崩発生から4日後の3月12日に、源太ヶ岳東側斜面のデブリの近く(B点、標高1420m)において雪崩状況と積雪の調査を行った。

[成果と効果]

本雪崩は、2002年1月13日に発生したもの(「平成13年度防災科学技術研究所年報」、源太ヶ岳雪崩事故対策委員会(2005)「源太ヶ岳雪崩事故報告書」と同じ斜面で発生した。雪崩発生当日の現場における観察によればデブリには厚さ50-60cm程度の雪のブロックが多数堆積していたことから、雪崩は雪粒子が結合して板状となった雪の層(スラブ)が崩れ落ちて発生した表層雪崩と考えられる。

3月9日のA点の積雪深は220cmであり、表面から深さ27cmまでは新雪であった。松川温泉の気象記録から、この新雪は3月4日及び6日の降雪に対応し、これらの日には周辺一帯に降雪があったと考えられる。3月12日にGPSにより測定したデブリの概略範囲を図1(下)に示す。図2はB点における積雪断面観測結果である。積雪深は370cmであった。源太ヶ岳周辺の山域では、麓で降雪が無い日にも、当日も含め、雪崩発生前数日間に強い降雪や吹雪があった。源太ヶ岳東側斜面に雪が短時間に多量に堆積したことが、積雪の力学的安定度を低下させる主な原因と推定される。シ

ヤベル コンプレッション テスト等により、表面から深さ40、65、95、105cmに弱層が観察された。これらの弱層と雪崩発生の関係は、今後の検討課題である。

現場周辺の気象、積雪等に関する情報を提供いただいた、松川温泉峡雲荘の方々、平山順子様、多賀谷真吾様にお礼申し上げます。

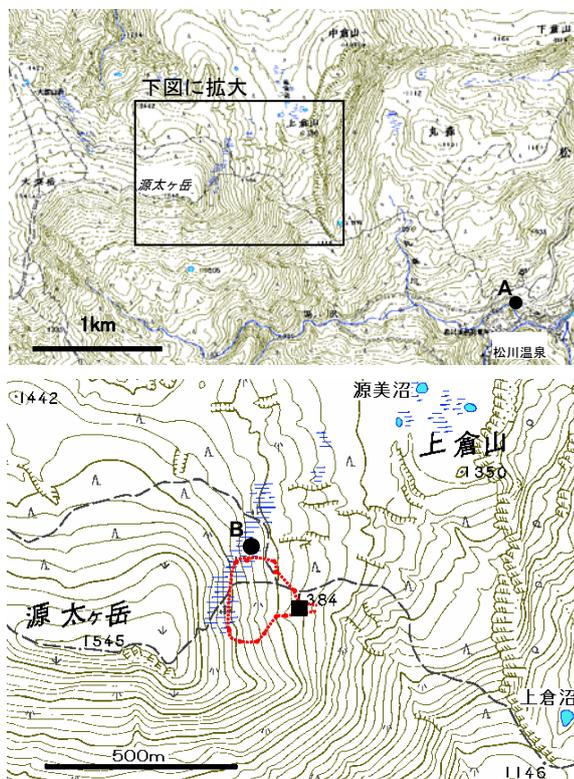


図1 源太ヶ岳周辺の地図(上)と拡大図(下)
(国土地理院数値地図25000を使用)。(●印(A、B)は積雪観測場所、下図中央の点線はデブリの範囲、■印は埋没者発見場所を表す。

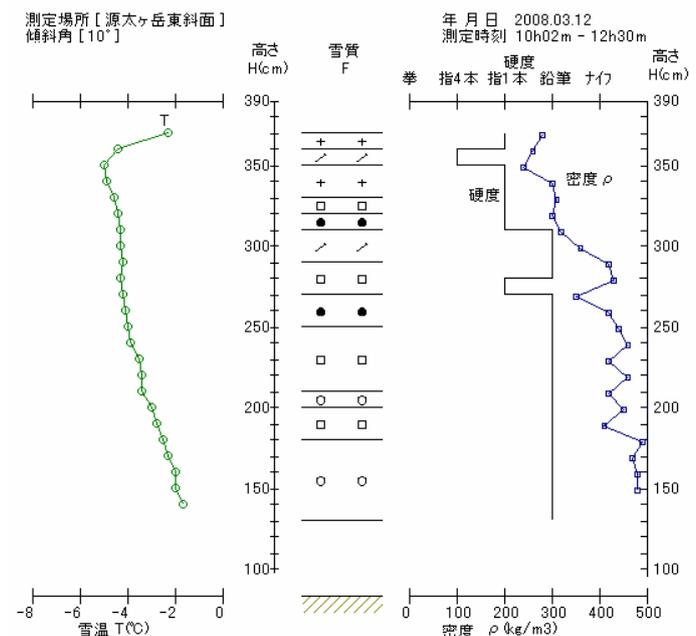


図2 源太ヶ岳東側斜面のデブリ近く(B点)における積雪断面観測結果(2008年3月12日)。